

前へ

岐宿中学校だより
文責：都々木

県中総体駅伝競走大会結果 11/8木

岐阜女子の伝令

福中女子5位
福中男子2位
三小男子3位

1区 洗川結香 10:21

市大会時の記録を32秒上回る好走。強者が揃う区間で7位はお見事！

2区 平田編香 6:47

女子2kmで6:50を切る選手はわずか。強い1区間3位。

3区 谷川真希 7:26

市大会時の記録を21秒上回る好走。累計6位をキープ。

4区 樽角珠穂 7:33

足の痛みを物ともせず、市大会時の記録と同等タイムを記録。

5区 関田 結 10:24

ペース配分の難しい最終区。チームの信頼を背負い、市大会時の記録を8秒上回る好走。区間賞との差わずか2秒の2位。惜しい！



サポート

小柳琉希亜
野原 鈴花

小柳 祐月

選手が走り集中できたのは三人のおかげ。感謝！

激励式で話したとおり、「井蛙(せいあ)」とならず、より大きな海へ、より広い場所へ泳ぎ出してください。「満足する」ということは、その井戸に留まるということ」です。



岐宿町民文化祭 11/4(日)



地域への貢献度が最も高い部活動だと評価していただきます。顧問の久保先生の「赤とんぼ」の独唱、会場をひとつにした「紅葉」の合唱で会場には秋とともに「笑顔」がやってきました。
「〇〇賞ではなく、聴衆の拍手と褒め言葉をモチベーションとする活動が音楽の神髄」という久保先生の言葉に感動しました。
「勝つことは、部活動の目標ではあるが目的ではない」ということを思い出させてくれました。

五島市小中学校音楽発表会 11/9金

「舞臺の上に立つ」。

私が生徒たちに最も体験させたいと思うことです。3年生は、文字どおり文化会館の舞台上に立ちました。今号の記事にある県駅伝、町民文化祭もそうです。「人の脚光を浴びる場に出ていくこと」と辞書にはあります。部活動の大会、ロードレース大会・etc. 色んな舞台に立つ体験は、「苦手なことにも物怖じしない」堂々とした態度の取れる人間を育てる歌声でした。



(雑感) 私事だが忘れられない嬉しい出来事がある。十年前、未っ子の三男が小二の時だ。学校の生活科か何かで幼児の頃の写真を使うとのことで、土曜の夜から「出して、出して」とうるさく言う。アルバムから二十枚ほど選んできて、はにかみながら、しかし嬉しそうに「むっ」と撮ったのか「何歳の頃か」などと、兄や母に尋ねてはニコニコしていた▼普段から寝ぼけ癖のあった三男が、月曜の深夜「写真、写真」といいながら洋服ダンスや障子を開け閉めしていたが、しばらくすると我に返り、トイレに行ったら後、何事もなかったように寝てしまった▼火曜日、仕事から帰るとテーブル一杯に何枚もの写真を並べ漢字の宿題をしていた。「片付けなは？」と声をかけたのだが、「いいえ」と聞かない。何に使ったのか尋ねたところ「今日は使わなかった」とのこと。持つて帰らなくても学校に置いておけば良かったのに、と言っても「いいえ」と一蹴▼三人の息子が一緒に写っている一枚を選び、「お父さんはこれがお気に入りやなあ。お前は？」と聞くと、間髪入れず、「全部お気に入り！」と寝ぼけて写真を探していた訳が、わざわざ持つて帰りテーブル一杯に広げていた訳がわかった▼長崎県には『子育て条例』なるものがある。「いつの時代も子どもは社会の宝であり、(中略)大人はそれぞれの責任を自覚して(中略)子どもが生まれてきてよかったと感じる社会の実現に県民総ぐるみで取り組む」とある。あたり前のことを、わざわざ条例なんぞで定める必要があることを嘆くのは私だけだろうか▼三男は、少なくともあの日、「生まれてきて良かった」と感じてくれたのではないだろうか。岐中の生徒に「生まれてきて良かった」と感じさせるにはどうしたらいいだろうか▼久し振りに子どものアルバムを引つ張り出してみませんか？きつと幸せな気分になれると思います。

